

氏名：町井 恵理

実施国：タンザニア

協力活動 調査研究

活動名称 日本発祥「富山の置き薬」システムを用いてアフリカ農村部の人々へ医薬品を届ける事業活動

実施期間 2015年7月1日 ～ 2016年6月30日（実際の活動は2014年4月～）

(1) 申請した動機

私は青年海外協力隊として2年間アフリカのニジェール共和国で感染症対策の啓蒙活動に従事し、その間に何度も印象に残る経験をしました。ある日職場に行けば同僚が突然死したとの知らせを受けたり、ある時はいつも巡回していた村の子供の体調が悪くなり、その後満足な治療を受けられなかったために亡くなっていた事を聞かされました。その現状を目の当たりにした人間として、「なんとかしてこの現状を改善しないといけない」と強く感じました。

帰国後学んでいたビジネススクールのクラスで日本発祥の「置き薬」を展開することを考案し、半年間かけて企業へのヒアリングや教授からのメンタリングを通してビジネスプランをブラッシュアップしました。クラス終了後、本格的にこのビジネスプランを実現させるため、大学院メンバーや青年海外協力隊の仲間と共に2014年4月にNPO AfriMedicoを設立し（2015年3月法人化）、現在サービスの実現に向けた活動を行っています。

この活動を進めていくためには、どのような薬にニーズがあるのか、日本の製薬企業はアフリカをどのように捉えているのか、そもそもアフリカでの置き薬事業がビジネスとして成り立つのか等について深く調査するべく、現地の視察を行いたく、この帰国隊員/青年支援プロジェクトに申請させていただきました。

(2) 活動内容概要

病院・薬局へのアクセスが悪いアフリカの農村部に対して「家に薬箱を設置し」「使った分だけ支払う」日本の「置き薬」モデルを展開します。このモデルによって現地で継続して回せる仕組みを構築しながら、現地の医療環境を改善し住民の方々の健康増進に貢献していきます。

●対象：適切な医薬品にアクセスできないアフリカ農村部の人々（最初のアプローチ国：タンザニア）

●具体的な事業の内容と目的：

①医療アクセスが困難な地域への配置薬の設置：早期に対応すれば病院に行かなくとも治癒可能な疾患に対して、セルフメディケーションを促進させることで住民の健康増進に貢献する。

②医療知識の向上：医薬品を自宅で管理することで薬に触れる機会が増え、その結果医療知識の向上に繋げる。

③雇用の創出：未就労働人口が多いタンザニアにおいて、「AfriMedicoヘルススタッフ」として、安定した収入を保障する雇用を提供する。女性を中心に雇用することで、女性の社会進出の後押しをする。

④日本企業の海外進出の活性化：現在、アフリカへ進出している日本の製薬企業はわずか4社であるが、日本で独自の進化を遂げた薬（点眼薬、湿布等）のアフリカでの可能性は大きい。本事業が日本の製薬企業とアフリカの住民を繋ぐ架け橋となることで、アフリカ市場への進出を促進し、日本経済の活性化に貢献する。

●方法：以下のプロセスに従い、農村へ置き薬を展開していきます。

①仕入：タンザニアおよび日本の製薬会社/卸店から医薬品を購入、あるいは寄贈を受けて必要となる医薬品を調達

②輸送：（日本の医薬品の場合）日本から船便でAfriMedicoタンザニア事務所（今後設置予定）に医薬品を送付

③仕訳：タンザニア事務所にて、医薬品を仕分け。置き薬ボックスを作成し（例：右写真）

④配送：AfriMedicoヘルススタッフは主に農村部を中心に家庭や学校、共通施設等の設置場所を



（「置き薬」ボックス例）

定期的に訪ね、使用された分の医薬品を補充→

⑤代金回収：医薬品の補充をする際に使用された分の医薬品の代金を使用者から回収。回収した費用は AfriMedico タンザニア事務所を通じて、日本の AfriMedico 事務所に送付。

(3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

【活動成果】置き薬 box の設置 (2016 年 5 月)

2016 年 4 月末から約 1 週間タンザニアに滞在し、現地協力者と共に都心から車で 2-3 時間かかる村に置き薬 box を設置しました。今回はオペレーションの最適化をするトライアルの位置づけとしており、現地で購入した OTC 医薬品 10 種類を格納しております。

設置 3 日後に協力者と共に再度村を訪れ、置き薬 box の適した置き場所 (涼しい場所) や管理体制、同じ村の他地域への展開について、村長と議論し認識合わせしました。今後はより使用頻度の高い医薬品ラインナップの整備や、代金回収の仕組みの簡素化など、現地で実施しやすいオペレーションを構築していきたいと考えています。

【苦勞した点・反省点】

”置き薬”という概念がないアフリカで、日本のおもてなしの精神が根付く置き薬のオペレーションについて具体的に説明したり、理解してもらうやりとりに苦心しています。

電話や対面でのやりとりですぐ理解するのは難しいと最初から想定してしていましたが、現地と一緒に行って実際にオペレーション (薬の残数チェック→減った分の代金回収→薬の補充) をしているところを日本人がチェックしないと、本当に彼らが腹落ちしているかが判りません。次回の訪問でそのオペレーションを実際に我々の眼で見て確認する必要があります。

現状は当団体に所属する日本人は全員日本在住ですので、近い将来には継続的に現地でオペレーションを管理できる日本人とのコラボレーションが必要だと考えています。

(4) 今後のプラン

●置き薬事業：

- ・置き薬 box 内の医薬品リストのブラッシュアップ (~2016 年 8 月)
→使用頻度の高い医薬品やマラリアキットの導入
- ・オペレーションの効率化 (~2016 年 12 月)
- Tigopesa 等、電子決済による簡便な管理
- 訪問機会の最適化による低コスト化
- ・上記アクションを踏まえて、置き薬 box 設置エリアの拡大 (2017 年以降)

●日本医薬品の現地登録手続き (2016 年内)

- ・現地でニーズがあると想定される医薬品の選定
- ・国内製薬企業と連携し、現地での医薬品登録作業の着手